

工場爆発、家屋浸水も犠牲者ゼロ



災害時の要支援者の避難について考えた
シンポジウム

マニュアル策定についてなどで火災が発生し、
て、佐藤准教授は「耳地区を挙げて避難。翌
の聞こえや認知機能な朝に約100世帯の大
どを把握した上で、個半が浸水したが、命を
別に幾つかの避難パタ落とす人はなかった。
ーンを想定することが研究チームは19年4月
大切」と指摘した。
豪雨のとき同地区で 国的な災害対策に生か
は、6日深夜のアルミ すため調査していた。
工場爆発で複数の住宅
(久万真毅)

総社・下原の経験継承

県立大
シンポ ヒアリング結果報告

2018年7月の西 アリリングした同大の佐
日本豪雨で工場爆発と 藤ゆかり准教授（保健
家屋浸水という二重の 福祉学）ら研究チーム
被害を受けながら1 のメンバー3人が調査
人の犠牲者も出なかつ 結果を報告した。

た総社市下原地区の事 消防庁消防研究セン
例に基づき、災害時に ターの天津暢人主任研
手助けが求められる要 究官は、過去の被災経
支援者の避難の在り 験について普段から家
方を考えるシンポジウ 族と話し合っている人
ムが9日、同市窪木の ほど避難が早かったこ
県立大で開かれた。 とを紹介し、「地域の
町内会や自治体の防 被災の歴史を伝承して
災担当者ら約90人が聴 いくことが重要だ」と
講。同地区の高齢者18 強調した。
要支援者の避難行動

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。